

LORC 2006年4月スケジュール

13日(木) 2006年度第1回運営会議

時間: 9:00~

会場: 深草学舎 8号館4階会議室
瀬田学舎 1号館理事室(テレビ会議)

研究班及びWG活動報告(年度総括)

第1班RA 辻本 乃理子

2005年度1班の活動を総括すると、まず研究会は他班やWGとの共同開催を含め3回実施し、出版予定のブックレット4冊のうちすでに1冊を発刊しました。調査研究としては、昨年5月に英国リバプール市にて地域戦略パートナーシップ(LSP)の調査を行い、同11月にはロンドン、ウェールズ、湖水地方を訪問し、地域再生の政策と制度、地域人材をテーマに調査を行ないました。2005年度より特定研究WGの創設により、1班と政策デザインWGとの役割分担については、サステナブルな地域像の構築および東京農工大COEとの連携、三重県プロジェクトについては1班が担当し、具体的な地域での活動は政策デザインWGが担当することとしました。2005年度の東京農工大学COEとLORCと共同研究プロジェクトでは、三重県における包括助成金型地域予算制度導入へのサポートを行なってきました。新たな組織と予算配分制度が創設されることになりましたが、当初期待していた制度の創設には至りませんでした。

2005年度当初より参加型・協働型の地域公共政策システムの提示、地域像について議論を行なってきましたが、1班が対象とする「地域」のイメージや定義について確立できておらず、今後も検討が必要です。

第2班RA 田村 瞳

今年度は、班長である土山先生がアイルランドに留学されたため、富野先生が代理として第2班の班長を務めることになった。まず前半は、「地域社会の公共を担う人材を育成する」教育・研修システムの構築に向けて、英国の公共政策・行政学系大学院プログラムや日本の公共政策系大学院プログラムのカリキュラム分析を踏まえながら、公共政策カリキュラムの要素抽出を目的に研究してきた。しかし、前半の研究の中で、公共性の解釈について検討する必要があるとの認識に達し、後半からは公益との関連で公共性をどのように定義するべきかを視点にしつつ、地域人材像の明確化や信頼性の高い統合的な研修

システムの構築について検討することになった。ただし、最終的な結論までには至らなかったため、今後はMLを通じて議論することで合意した。来年度からは、土山先生が留学を終えて第2班の班長として復帰される。

第3班RA 田村 瞳

第3班は、2004年度までの2年間で一旦研究活動を終了し、2005年度以降はその成果をまとめるため最終年度までは活動を休止することになっています。しかし、「地域公共人材」育成のためのシステムづくり及びそれに伴う認証評価に関する提言書の文科省への提出や2年間の研究成果をまとめた書籍の発刊について班内で議論する必要が生じ、今までに計3回の研究会を開催しました。

今年度は、文科省に提出する「地域公共人材」の開発とその社会的認証に関する提言(書)の内容、及び第3班の2年間の研究成果をまとめた書籍の出版、について検討してきた。その結果、については以下の内容が最終的な提言として合意された。

マルチパートナーシップ型の地域社会(創造)の推進、その新たな地域社会を担う人材(LORCでは「地域公共人材」と呼んでいる)の育成やとりわけ従来の自治体の職員採用や昇進人事にリンクさせるような総合的な社会システムの整備、大学や大学院等の高等教育機関と自治体やNPO・企業の研修機関とのカリキュラムや人材の両面における相互補完を有する研修システムの構築、国の人材育成システムとの一定の整合性を保証しつつ、地域社会の主体性や独自性をはかった「社会的認証」の仕組みづくり

提言書は、これらの提言を踏まえて、最終的に「地域人材開発機構(仮称)」の設立を求める趣旨のものである。提言書が完成し次第適切な時期に記者会見を実施し、LORCの研究成果として発表する。そして、文科省だけでなく、国会議員や各関係省庁に送付する予定である。

の書籍は、全5章から構成され、事例等を挙げつつの提言内容を具体的に説明し

たものである。これは、LORCの叢書としての位置付けが確認されており、日本評論社から来夏発刊予定である。また、2005年8月に、LORCブックレットNo.2として坂本勝編著『公共政策教育と認証評価システム - 日米の現状と課題』を発刊した。

第4班RA 新井 健一郎

2005年度の4班の活動は、アジア・アフリカからの参加者を得て6月に開催された研究会を皮切りに、1) インドネシア、スリランカ、ウガンダ、南アフリカを対象とした研修機関・プログラムのサーベイと、2) アジア・アフリカ6ヶ国の分権化をactor perspectiveの視点から比較する書籍出版へ向けた準備と研究、の2本の軸を中心すすめられた。前者に関しては、順調に調査が行われており、報告書が出揃いつつある。また、書籍の方は、出版計画にもとづいた出版社とのやり取りが進行中であるとともに、スリランカの章が他に先行してまとまりつつある。このスリランカでの研究は、次年度以降、同国で予定されている実地活動にもつながってゆくものとなる。

特定研究WG担当RA 朴 重信

昨年度は政策デザインWGの活動として、高島市と龍谷大学LORCが協力して行う高島市協働プロジェクトの土台づくりが行われました。

昨年8月24日の高島市視察及び市長・職員との懇談会開催を皮切りに、10月4日には高島市の海東市長との面談会、12月2日には企画部の職員との会議が開催されました。当初、龍谷大学のLORCと東京農工大学のCOEが連携して「協働型・循環型社会に対応する行政のあり方(2006年ワークショップ)」をテーマとした協同研究プロジェクトを提案しておりましたが、今回は高島市の「高島市総合計画策定」の一環として、とりあえず高島市・龍谷大学LORC協働プロジェクトとして発足させることになりました。

2006年2月20日には、「第1回高島市総合計画策定に係る市民懇談会」と「高島市・龍谷大学LORC協働プロジェクトの事前協議会」、3月14日には第2回目の「高島市総合計画策定に係る市民懇談会」が行われました。

市民懇談会では、高島市の各地域が抱えている様々な問題と現状を、住民自ら直接議論あるいは提議することによって高島市総合計画策定の課題としてまとめることが目的でしたが、住民の皆さんの生の声を多く収集することが出来、大変貴重な場となりました。高島市・龍谷大学LORC協働プロジェクトの事前協議会では、高島市、マキノまちづくりセンター、そして龍谷大学LORCのそれぞれの役割分担について協議しました。高島市は協働プロジェクトの全体を支援する役割を担うこととし、特に、プロジェクト予算の確保、会場の提供、職員の派遣、資料づくりなどを担当し、マキノまちづくりセンターは市内6地域のNPO団体及び住民に協働プロジェクトの紹介と参加への呼びかけを担当するこ

とになりました。龍谷大学LORCは、高島市とマキノまちづくりセンター及び地域NPOの間のコーディネータとして、研究プログラムに関する市民・職員研修及び講演会、「プロジェクト研究会」の運営、ワークショップ、シンポジウムの開催、に関して積極的に取り組む予定です。

教育・研修システムWG：

RA 田村 瞳

このWGは、これまで第2班が取り組んできたNPO職員や自治体職員の教育・研修システムの構築に向けて、実践的な取組みを試行するために今年度から発足した。その研修プログラム試行の第一弾として、2月に熊本市で、職員に求められる市民協働に関する基本的認識と全庁的な理解の醸成、及び具体的な政策・事業の展開に必要な手法の体得を目的に、協働型研修を実施した。まず、2月1日に市の全幹部職員を対象に、富野先生の

講師のもと座学形式の幹部研修を実施した。続いて、2月13日から15日の3日間をかけて、協働型研修を集中的に実施した。この研修は、市の係長級職員と市民(NPO含む)と一緒に参加して、「子ども」「高齢者」の2つのテーマのもとワークショップ形式で行った。両研修とも受講者の反応がよく、好評のもと終了した。4月下旬もしくは5月上旬あたりに、研修受講者を再招集し、LORCから研修に関する事後報告&フォローアップのための会合を開催する予定。

2006年度は、府県レベルの研修センターでの協働プログラム、個別の市町村レベルの研修センターでの協働プログラム、を実施することを予定しており、その候補先としてについては滋賀県市町村職員研修センター、については多治見市、寝屋川市が挙げられている。現在は、候補先と研修実施に向けての準備を進めており、調整がつき次第、具体的な協議に入っていく。

LORC Information

第2研究班代表の土山希美枝先生がアイルランドから帰国されました

昨年3月よりアイルランドに滞在されていた土山先生が、この度無事に帰国されました。今後は、あらためて第2研究班代表としてLORC研究活動に携わって頂くこととなります。なお、土山先生のご帰国により、好評だった「土山先生のアイルランド滞在記」は残念ですが終了となります。今月号が最後となりますので、是非次ページの滞在記ご一読下さい。

2006年度新PD・RA体制

昨年4月より1年間お世話になって参りましたPD・RAチームですが、第1研究班RAの辻本乃理子および特定研究WG担当RAの朴重信が退職し、新たに2名のRAがLORCに加わることとなりました。4月から下記の新体制でLORC研究補助にあたります。今後とも宜しくお願い致します。

2006年度新体制

PD：	的場 信敬
第1班RA：	西原 京春
第2班RA：	田村 瞳
第3班RA：	田村 瞳
第4班RA：	新井 健一郎
プロジェクトRA：	阿波根 あずさ

LORC資料室文献紹介

LORC支援室の蔵書をより分かりやすく管理するべく、現在データベース化を進めています。ウェブサイト上での資料検索も試験運用を開始しています (<http://lorc.ryukoku.ac.jp/resource.html>) ので、是非ご利用下さい。

皆様からの有益な文献・映像資料などの情報をお待ちしております。ご協力宜しくお願い致します。

佐々木毅、金泰昌（編）『公共哲学7 中間集団が開く公共性』（東京大学出版会、2002）

佐々木毅、金泰昌（編）『公共哲学8 科学技術と公共性』（東京大学出版会、2002）

佐々木毅、金泰昌（編）『公共哲学9 地球環境と公共性』（東京大学出版会、2002）

佐々木毅、金泰昌（編）『公共哲学10 21世紀公共哲学の地平』（東京大学出版会、2002）

雑誌の情報は以下のサイトへ！

ガバナンス

http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html

日経グローバル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

え、もう最終回？ もう帰国？ 前回のDVDレコーダー故障の顛末は（1）？ パブの話は？ 愛車といっしょにアイランド紀行（2）は？ 実はかなりハマってるアイリッシュダンスは？ 書けるものですらあふれるほど話題があるのに...。そう、文字数もだんだん伸びてしまったほど。

ともあれ最終回、アイランド滞在1周年記念日の話で締めましょう。

昨年3月1日の到着以来、アイランドのたくさんの人に支えられ、いろいろありつつ楽しく過ごしてきました。年末からはとにかくいろんな人に出て話を聞いて帰ろうと思い、愛車とアイランドをまわっています。今年の3月1日は大学でも研究機関でもあるティペラリー・インスティテュートへ、2日は、2003年にも訪問しアイランドに関心を抱くきっかけとなったバリハウラ地域へと、1泊2日の調査旅行です。できればその地域の宿に泊まりたいと思い、バリハウラにお勧めB&Bを紹介してもらいました。ティペラリーを訪問して夕方B&B着。ほのかな期待通り、そこは、2003年にも泊まった宿ではありませんか。記念すべき日に、記念すべき場所、記念すべき宿。自分が2003年に書いた宿帳のサインにも対面。感慨が深まります。まだ残る日光を追いかけて記憶をたどりながら街をまわり、夕闇を眺めます。そう、こんな記念すべき日はディナーでお祝いしなければ。

街中をみると、普通のパブ（3）のほかに、食事可のパブがありました。メニューもなかなかよいのですが、街の端っこのパブ付きレストランにはEU構造基金の支援を受けて歴史ある建物を改修したというサインが。これは使わねば。パブの入り口から入って、「レストランに入れる？」「ごめん、レストランは週末だけなんだよね」そうかあ。残念...。パブも雰囲気の良いところでした。きっと週末はにぎわうことでしょう、惜しみつつ気を取り直し、食事可のパブに向かいます。扉を開けると、...お客さんはすでに数人カウンターでビールを飲んでいますが、なんだかややがらんとした雰囲気。「あのう、食事できる...？」店主らしき人がお掃除をしてい

る若い女性と話します。「ごめん、今日は食べ物ないんだ」。えっ！

聞くところによると、サッカーの大きな試合があるため今日は食事は出さない予定で、厨房も閉めてしまったとのこと。がらんとしていると感じたのは、テーブルが壁際によせられていて、スクリーンの前に人がたむろするためのやや広いスペースが確保されているからだ、と気がつく私。「他に、食事がとれるところ、ある...？」「あっちにレストランがあるけど」知ってます、そこは週末のみなんです。「あとはチャイニーズと...」そこ、営業してる雰囲気じゃなかったんです。それに、今日はアイランド1周年記念日だし...。「あと、あれ」と、示してくれたのは、冷凍モノのチキンや魚を揚げるファーストフード揚げ物やさん、2軒。というわけで、記念すべき1周年ディナーはチキンナゲットとオニオンフライに終わったのでした。アイランド、海産物もなかなかだしラム肉もおいしいんです。もっと美味しいもの食べることに積極的な風土でもいいと思うんですけどね。でも、まあまあだったし、そのあと行ったパブでは地元のおじさんにギネスを1杯おごってもらってほどよく酔っぱらったし、他のパブもなかなかにぎわってるようでいい感じだったし。あれこれ含めて、思い出深い1周年記念日となったのでした。

その日の夜、この冬一番というくらいものすごく冷え込んで、11時で暖房が切れてしまうのが常のB&Bが寒くて何度も何度も目を覚ましてしまったのは、また別のお話。アイランドが経済発展して食事と暖房が豪華になることを心から祈る、エコフレンドリーでない土山だったのでした。

さあ、帰国です。嬉しく寂しい気持ちとまだまだ山のようにある土産話を抱えて、みなさんにお会いできるのが楽しみです。日本でも、どうぞよろしく。

1 最初は「2週間かかる」だったので、いろんな顛末を経て、結局、「部品をとりよせるので2ヶ月かかるので、それじゃ悪いから新品ととりかえるね」。ザッツ・アイランド。

2 通勤に使うわけでもない街暮らして、昨年6月の購入以来8000マイルを走破。

しかしこの2月、「タイヤ2本とブレーキの摩耗」を理由に車検落ち。危険な車だった？ いやいや、よく走った可愛い子でした。この旅行のあと整備し、再試験はちゃんとクリアしました。

3 アイランドのパブは、夜は食事を出さないのが普通です。でも、みんなひたすら飲んで語ってスポーツの試合で燃えます。音楽がつくときもあります。いい文化です。

編集後記

2年間お世話になりました。よき仲間との出会いと学生時代には得られなかった経験を与えてくださったLORCには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。（N）

はじめまして、この春からお世話になります。少しずつでも仕事に慣れて、早く皆さんのお役にたてるようになりたいと思います。どうかよろしくお願いします。それにしても京都の春は本当に美しいですね。（Ky）

最近、今大人気の任天堂DSと脳を鍛えるソフトを購入し、早速自分の脳年齢を測定しました。...が、なんと70歳と診断が！！ショックもあり、20代になるまで必死に挑戦しました（笑）。（H）

今年度も引き続きよろしくお願いたします。（K）

短い間でしたが、皆様大変お世話になりました。皆様に感謝の礼を申し上げます。色々本当に良い勉強になりました。今後とも宜しくお願申し上げます。（J）

はじめまして。朴さんの後任RAとしてワーキンググループを担当する阿波根といいます。今年奈良女子大学大学院の博士課程を修了したばかりです。院生時代に「見る・聞く・歩く」という研究スタイルを強要？！されてきたせいか、今後もワーキンググループで実践的に色々な場所へ飛びまわられる事に胸躍らせています。どうぞよろしくお願いたします。（A）

2人の新RAも加入し、新たな気持ちで新年度のスタートが切れそうです。2006年度もどうぞ宜しくお願いたします。（T）